

「うべ協育ネット」で学校と地域の絆づくり

～合同避難訓練で学ぶもの～

【宇部市 藤山中学校区】

地域の概要

藤山中学校区は、宇部市のほぼ中央部に位置し、鶺ノ島小学校区と藤山小学校区からなっています。鶺ノ島小学校区は、かつて炭鉱でにぎわったところで、現在は商業地域となっています。

一方の藤山小学校区は藤山村が宇部村と合併した際に村名が地名となったところで、無形民俗文化財の「居能盆踊り」があります。

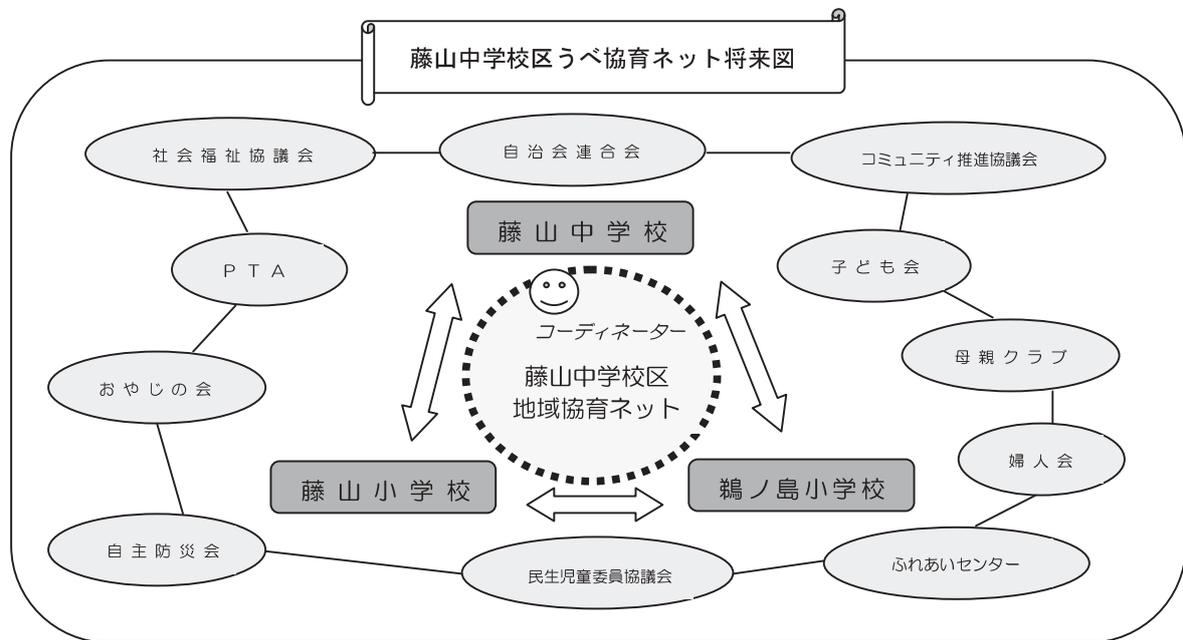
人口	15,843 人	
世帯数	7,381 世帯	
対象校及び 児童生徒数	藤山中学校	484 人
	鶺ノ島小学校	214 人
	藤山小学校	635 人

組織の内容

宇部市では、平成 25 年度に市内の全小・中学校にコミュニティ・スクール制度が導入され、藤山中学校区でも三つの学校に学校運営協議会が設置されました。この三つの学校運営協議会が連携し、推進母体となって「うべ協育ネット」の構築に取り組んでいます。

小小連携や小中連携としては、「9年間を見通した生活・学習規律の取組」があり、「あいさつ」や「言葉遣い」、「教室環境の整備」など8項目を共通理解の下で取り組んでいます。また、両小学校の宿泊学習に中学校教員が講師として参加し、夏休みには、小学校教員が中学校に補充学習の講師として出向くなど、教職員間の交流活動もあります。

さらに、子ども会や放課後子ども教室などの活動に対し、地域の方々が積極的に、しかも熱心にかかわるなど、両校区とも子どもたちの育ちに関心が高いことがうかがえます。



特色・重点的な取組

本中学校区では各小・中学校が開かれた学校づくりとして、地域の方々による学校支援や児童生徒による地域貢献を行っています。地域との合同避難訓練を行うなど、地域と協働した取組も行っています。

このような学校と地域とのWin-Winの関係は、学校と地域の信頼し合える関係につながっています。

主な活動の紹介

【合同避難訓練】

鵜ノ島地区では、平成25年度より校区の自主防災会の協力の下で津波を想定した合同避難訓練を行っています。

自主防災会や警察の方々から、学校では把握できない安全な避難経路や避難場所、また、避難時の心得などを指導していただき、高学年と低学年がペアになり、低学年を導きながら、約2km先の高台をめざす訓練をしました。途中では児童の安全確保のために校区の見守り隊や交通部会など地域の方々から支援をいただくことで、児童は緊張しながらも終始落ち着いて避難訓練を行いました。

藤山地区では、幼稚園、小・中学校と地域とが一つとなって合同避難訓練を行いました。この訓練は避難訓練にとどまらず、津波警報が発令された場合を想定して幼児や児童生徒が安全に避難するための幼稚園、小・中学校と地域とのよりよい連携の在り方について検証することがねらいの一つでもあります。

実施については、藤山小学校区自主防災会をはじめ地域の方々が、要所要所で誘導するとともに、中学生が隣接する幼稚園の園児の手を引き、励ましながら藤山小学校の運動場に向かうというものです。

運動場では待機している小学生と合流した後、消火器を使った消火訓練も併せて実施しました。

この合同避難訓練を経験することで、「幼稚園児を連れての避難がとても大変だった」「もしものときは小さい子たちを守ってあげたいと思った」「地域の方の協力は大きいと感じた」等、他者への思いやりを感じ取ることができる感想を中学生が述べています。



避難訓練



中学生と園児たち



合同防火訓練

成果と課題

それぞれの地区で実施されている避難訓練については、いずれも地域との連携・協働が欠かせないものです。参加した地域の方々や児童生徒は、地区のみんなで助け合い協力し合うことの大切さを、この避難訓練で学んでいます。

特に、児童生徒は、避難訓練を通して地域の方に見守られている、支えられているということを実体験として体得することで、他者とのかかわりの大切さを学んでいます。

今後も、小小連携、小中連携はもとより、地域との連携を図っていくことも必要と考えています。

今後の取組

小小連携、小中連携、学校・家庭・地域の連携を充実させるためには、小・中学校や地域の現状や課題を互いに理解する必要があることから、「学校と地域との交流」の場、「熟議」の場を充実させていくことが重要であると考えています。

学校・家庭・地域が協働して課題解決に取り組むことにより、学校・家庭・地域の^{きずな}絆を深め、ネットワークを広げていきたいと思います。